

## 第 20 回解剖技術研究・研修会参加報告

医学系部門 基礎社会医学班

中谷 宣弘

### 1. はじめに（目的等）

本会は日本解剖学会学術総会に併行して行われる解剖技術研究会であり、解剖学関係、とりわけ献体を取り扱う技術職員の研修を目的とし、形態学分野における技術の伝承と発展を基本理念と考え、日常の解剖技術業務に関する報告、現状の問題点等を研究会での発表を通して意見交換を行い、今後の業務遂行に役立てることとしている。

### 2. 期間・場所

期間：2019年3月25日（月）

場所：日本歯科大学新潟生命歯学部

### 3. 参加者等

各大学の解剖学技術系職員 約 50 名

### 4. 研修内容

今回の研修会では、教育講演と一般演題を聴講した。教育講演では顕微鏡的形態学の話題を2題、一般演題では医師による手術手技を目的とした解剖研修（以下 CST）を始め、実習室のカビ対策、顕微標本作成過程での工夫など多岐に渡った。また、当日は研修会幹事として会場準備・片付け、受付と会計業務を行った。

### 5. まとめと感想

報告者は同業の技術職員がほとんどなのでどの話題も非常に参考になったが、とりわけ CST についての報告が印象に残った。CST とは、従来の学生が人体の正常構造を知る目的で行う解剖実習とは異なり、卒後医師が手術手技を向上させるための解剖である。平成 24 年に厚生労働省からガイドラインが発表されたのを契機に国内において急速に普及し始めた。すでに何校か先行している大学もあるが、本学では今年度ようやく実施が決定し作業部会が立ち上がり施設改修について動き始めたところである。本学の CST は解剖センター内を改修して行われ、ご遺体の処置法も従来と異なるなど立ち上げから技術職員が関与する部分も多い。そのため施設整備や処置法の変更点などの話題は非常に勉強になった。今後本学で CST が導入された際には、今回得た知見も参考にし、より質の良い技術支援が出来るよう尽力していきたい。